

## 寺社を巡る会

# 活動記録書

開催日： 平成27年11月5日（木）	開催テーマ： 大口から寺尾へ歴史の里を歩き花木園を訪ねる
開催場所： 寺尾・馬場地区	記入者： 横山 美智男
参加人数：寺社を巡る会会員 ビジター 合計	男 28名 男 名 女 7名 女 名 計 35名 計 0名 35名
実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など）： コース：大口駅～里見入道義高記念碑～松蔭寺（法話拝聴）～宝蔵院～寺尾城址～馬場稲荷～馬場花木園（昼食）～馬場赤門～建功寺～せせらぎ緑道～子安農園跡～子育て地蔵～大口駅（解散）	
<p>本日は鶴見区の寺尾・馬場地区の探訪である。この地域は、鎌倉幕府の重要な防御拠点であり、室町時代後期から戦国時代後期までは後北条氏の支配となった。また横浜開港後、外国人のために西洋野菜の栽培が始まった土地でもある。</p> <p>大口駅近くの公園から出発、東海道貨物線の下をくぐり松蔭寺に向かう。途中で里見入道義孝が即身仏となった場所があるが、今は記念碑が残るのみ。松蔭寺は、建武元年(1334)の正統庵が始まりで、本尊は釈迦如来立像である。ここに移設された義高入道尊堂がある。住職から無の心について拝聴するが、俗人が体現するのは難しい。松蔭寺には尊氏が室町幕府を起こした頃の古図（武蔵国鶴見寺尾郷絵図）が伝えられる。当時の集落、耕地、水利といった百姓の生活が垣間見える稀有の絵図であることから国の重要文化財とされ、現在は金沢文庫に保管されているという。</p> <p>入江川せせらぎ緑道を、大量のアメリカザリガニに驚きながら進み、宝蔵院に到着。創建は鎌倉時代以前と推定され、本尊は大日如来。境内には鎌倉時代の板碑や珍しい左文字の墓などがある。樹齢 600 年以上とされる源平五色椿あり、春に再訪し五色に咲き分ける花を見たいものだ。</p> <p>小さな公園の階段を上ると、中世領主諏訪三河守の寺尾城城址の空堀がわずかに残る。本丸があったとされる坂上の住宅の一角には寺尾城址の碑が建つ。急な階段を下り少し歩くと馬場稲荷（寺尾稲荷）、さらに住宅街を行くと馬場花木園に到着。昼食を済まし園内をまわるがこの時期の花は少ない。</p> <p>午後の最初は馬場赤門を訪ねる。安政年間に作られた豪農澤野家の長屋門で、紅弁柄（ベンガラ）で彩色されている。次の訪問は建功寺、本尊は釈迦牟尼仏坐像、永禄年間に五代目寺尾城主諏訪三河守により開基された。現住職は著名な庭園デザイナーでもある。旧本堂が取り壊され、新本堂の建設工事中であり境内を十分にみられなかったのは残念であったが、参道や鐘楼堂周りの木漏れ日には光と影の織りなす美を感じた。</p> <p>再度、入江川せせらぎ緑道を駅方面に進み、今は住宅地になった子安農園跡を遠くに眺める。横浜線を横切り、往時の子安村と寺尾村の村境にある子育て地蔵を拝み、最後は大口駅西口に戻り解散した。</p> <p>好天に恵まれ、たわわに実る柿や色づいた落ち葉を眺めながら、秋の気持ちのいい一日を過ごした。</p>	
参加者の状況・意見など： いつもより距離が長目で少しきつかった。ガイドさんの説明はわかりやすく良かった。	
次回予定： 12月3日（木） 10:00 高田駅集合（地下鉄グリーンライン） 高田・日吉地区	